

**【施策評価調査】**

施策名	4-1-1	循環型農業への取組み推進		106	今、食べ物は生命活動のみならず、健康な心身の成長等に必要不可欠であります。しかしながら、現状では、いつでも、どこでも、何でも食べられるという、かつて経験したことのない飽食の時代を迎え、自然の恵み、食べることの意味等を忘れかけています。このため、本町では「ごはんハート条例」により、食に関するシンボルチック条例により、食を通じた町づくりを提唱していますが、農産物生産においては、「土づくりセンター」を核として、環境にやさしい持続的な農業を実現し、安心・安全な農産物を消費者に提供し、食への信頼の確保と売れる農産物生産振興、農家所得向上を目的とする施策を展開する。なお、農地・水・環境保全向上対策における営農支援活動についても「環境にやさしい農業(営農支援)」によって、減・減の栽培も加速する見込みであります。
	担当部署	建設産業部産業課	担当 リーダー		
環境変化	農地・水・環境保全向上対策事業により、平成20年度より減農薬・減化学肥料による米づくりが約120ha取り組まれています。				農業は、食糧の生産と同時に自然環境の保全、緑豊かな農村景観の形成、文化伝承など地域の生活に深く関り多様な機能を果たしてきました。しかし、市街地でも農村部でも資源を使い捨てているため、生活環境や農業生産にも悪影響を及ぼしています。このため、消費者と生産者が連携を取り、市街地から発生する家庭生ごみと家畜糞尿を有効に活用する仕組みを、今後も維持し、土づくりを重視した循環型農業を進めます。循環型農業を進めるにあたっては、農産物が町内で消費できる体制づくり、売れる米づくり、有機栽培や減農薬栽培、トレーサビリティ等を通じて、消費者が期待している安全な農産物の生産を強化するとともに、食育の実践を通じて食のまちづくりを進めます。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：減農薬・減化学肥料米生産面積(ha)	平成16年度実績	計画	5.0ha	15.0ha	25.0ha	35.0ha	50ha
	8ha	実績	5.9ha	5.6ha	125ha	120ha	
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	26,087,000	27,000,000	20,400,000	23,700,000	54,800,000
	決算	23,289,011	24,648,750	51,344,250		

**事務事業事前評価 22年度の組立て**

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
安全な農産物生産推進事業	H21 現計 0	減農薬・減化学肥料による水稲作付け面積	町内の水稲作付け面積の約5%について、減農薬・減化学肥料により耕作が行われ、稲わらの踏み込みや堆肥が活用され、循環型農業が加速しました。さらに、原油高騰により生産資材等の高騰や不景気による買い控えにより農産物の価値が低迷していることから、農家所得維持につながります。また、元気があつむらを核として、学校給食や企業等への野菜類の供給体制が確立され、地産地消が加速されます。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 0	目標130ha			
土づくりセンター維持管理費	H21 現計 20,000,000	計画的な修繕による安定稼働、処理量の確保	長期修繕計画に基づく修繕工事を実施し、故障を未然に防止し休業日を少なくすることができました。しかし、処理量については、牛糞の投入が計画より下回りました。21年度は増量する予定です。また、生産された堆肥は注文に応じ切れない状況にあり、有機物が農地に還元されていることから、循環型農業に寄与しております。また、企業等の生ゴミの受け入れについては、体制が整いましたことから処理量の増加と処理料金の増額につながります。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 15,200,000	目標4,800トン/計画 4,800トン			
びれっじセンター運営委員会負担金	H21 現計 3,700,000	土壌診断件数	土壌診断業務を実施することにより、適正な肥料の使用につながり、地下水や河川の水質汚濁防止につながります。また、土づくりセンターより生産された堆肥を使用した安全な農産物を生産することにより、農産物のイメージアップやブランド化につながります。また、町民農園の開設やイベントの開催によりまして、消費者のみなさんに農業を体験いただき、理解や信頼関係が構築されます。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 3,700,000	500件			
土づくりセンター牛糞運搬機更新費	H21 現計 0	牛糞の搬入量	牛糞の運搬につきましては、道路に落下するようなことは絶対に許されないことであり、更新することによりこれらが回避されます。さらに、今回の更新器具については、容量の向上を図るために、効率向上となり安定した投入量が確保されます。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 35,900,000	3,500t			
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

**施策事前評価 22年度の組立て**

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性	農業者や家庭菜園の利用者が増加し、堆肥の供給不足が生じていることから、適正な維持管理を行い増産体制を図る必要があります。また、地産地消の推進や食育の観点から、安全な農産物流通体制の確立が必要であります。	・安全な農産物の作付け面積拡大 ・土づくりセンターの安定稼働 ・地産地消を推進するための流通体制の確立
規模拡大			
総合評価	規模拡大としているが、政策である「攻めの農政」をどう具現化していくのか、後期計画策定に向け、実効性のある取り組み検討すること。		